



菊陽町図書館

ライブ・レター

2023年7・8月号 WEB版

梅雨が明ければ、暑い夏の到来です。
夏休みは計画的に過ごしたいですね。図書館には、課題図書、おすすめの本、ライトノベル、マンガなどいろんなジャンルの本がそろっています。夏休みは図書館を活用しましょう！！



『部活でスキルアップ!ダンス上達バイブル』

のりんご☆監修 ストリートダンス協会☆協力



大会やコンテストでよい結果を出すためのレベルアップ法や、部やチームを運営するための工夫など、ダンス部が強くなるための50の極意を写真やイラストとともに紹介します。

『青春サブリ。挑戦する気持ち』

オザワ部長//文 青木 美帆//文 日比野 恭三//文 田中 夕子//文 菊地 高弘//文 くじょう//絵



久米田高校ダンス部は、押しも押されぬ強豪ダンス部。
でも、まだ日本一には手が届いていない。新入部員のアミは、練習の甲斐あってダンスの技術は少しずつ向上したが、無口なため、周りとのコミュニケーションが上手くとれなくて…。

『僕たちの部活がなくなる?★ だったら自分で放課後をデザインしよう!』

青柳 健隆//著



部活動とはどのようなものなのか、部活動はこれからどこにいこうとしているのか。
当事者の10代が知っておきたいリアルを伝えるとともに、「新しい放課後」を自分自身でデザインしていく方法を提案します。

『セントエルモの光』

天川 栄人//著



高1の安齋えるもはこの春、3年ぶりに地元に戻ってきた。東京の生活でいろいろありボロボロになってくが、久閑野の星空に誘われるかのように、天文部に入ることを決める。しかし、先輩が1人しかいない廃部寸前の状態で…。

こんなときにはどんな本？



『いつか君に会ってほしい本』

田村 文//著

一冊の本との出会いが、人生を変えることがある。短いフレーズから、力をもらうこともある。本の世界によろこ。豊かで楽しい時間がそこにある。中学生のあなたに向けて、おすすめの本158冊を紹介します。



『放課後の読書クラブ』

小手鞠 るい//著

中学生のころに将来は小説家になりたいとあこがれるようになったのも、京都の大学に進学したいと思ったのも、すべて1冊の本がきっかけでした。そんな「運命の1冊」をテーマ別に紹介します。



『13歳からの「差がつく読書術」』

大居 雄一//著

本を読みたいけど、何を読めばよいか分からない、どうやって選べばよいか分からない…。そんな人に「好きなシリーズを見つける」「漫画を入り口にする」といった、本の読み方選び方を教えます。



『まなの本棚』

芦田 愛菜//著

小学生で夢中になった児童書、次々と読破したシリーズもの…。年間100冊以上も読み、本について語りだしたら止まらない芦田愛菜が“秘密の約100冊”を紹介します。

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野圭吾//著



奇蹟とは常識で考えては起こりえない、不思議な出来事・現象のこと。深夜、3人の若者がとある家に盗みに入り、金品を取って逃げます。ひとまず隠れようということで、人気のない問題の「雑貨店」に入り込みます。やれやれー安心しますが、そこでは妙なことが始まります。(中略)



🍉 夏休みにおすすめの本

冒険、旅、友達、家族…いろんな夏の物語。
心に残る一冊との出会いがありますように！

😊 『明日の国』

パム ムニョス ライアン // 著
中野 怜奈 // 訳



母さんはどうして姿を消したのか？秘密をかかえた家庭で育った少年マックスが手にした答えは…。

🍉 『夏の体温』

瀬尾 まいこ // 著



小、中、大学生それぞれの出会いがもたらす奇跡を描いた短編3話。

😊 『海を見た日』

M.G.ヘネシー // 作
杉田 七重 // 訳



それぞれの事情で、養母の家に預けられた3人の子供たち。そこに新しい仲間が加わって冒険の旅へ…。

🍉 『夏のカルテット』

眞島 めいり // 著



中1の夏休み。図書委員の当番のために集まった4人。4人は音楽を通じてつながっていき…。

💡 考えるチカラ

💡 『10代と考える「スマホ」』 竹内 和雄 // 著



スマホを安心して、安全に使うためにはどうすればいいでしょうか？
どんなルールを作ればいいかな？

💡 『10代の悩みに効くマンガ、あります!』

トミヤマ ユキコ // 著



悩み多き10代に、いろいろなマンガを通してアドバイスします。心と体がふわっと軽くなること間違いなし！

💡 『10代のうちに考えておきたい「なぜ?」「どうして?」』

近藤 雄生 // 著



身の回りにはフシギなことや、わからないことだらけ。ちょっと立ち止まって考えてみるのはどうだろう！

💡 『10代が考えるウクライナ戦争』

岩波ジュニア新書編集部 // 編



若い人たちは、ウクライナの戦争をどう受け止めているのか。各地の高校生たちに座談会やインタビューで率直な意見を聞き、戦争と平和について一緒に考えました。

《映像になった戦争と平和を考える本》



📖 『この世界の片隅に』

このの 史代 // 原作 蒔田 陽平 // ノベライズ



広島江波で生まれ、18歳で呉に嫁いたすずは、戦争が世の中の空気を変えていく中、前を向いて生きていきます。戦時中の人々の普通の暮らしが丁寧に描かれています。

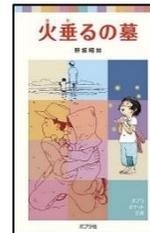
📖 『夕凧の街 桜の国』

このの 史代 // 原作 イラスト 蒔田 陽平 // ノベライズ



昭和30年広島。原爆で父と姉妹を失った皆実^{みなみ}は、母と二人きり貧しいながらもたくましく生きていました。でも、ふとした瞬間にあの日の光景がよぎります。やがて、皆実の体にも被爆の影響が始めて…。被爆し生き残った人達の深い絶望と苦しみを、三世代にわたって描いています。

📖 『火垂るの墓』 野坂昭如 // 著



昭和20年、戦争のなか親も家も失い、二人きりになってしまった兄妹。14歳の清太と、4歳の節子が、けんめいに生きようとする姿をえがいた名作。表題作のほか、読みついでいきたい戦争の童話5編を収録

📖 『杉原千畝』 百田尚樹 // 〔著〕



司法試験に落ちて進路に迷う青年・佐伯健太郎。ある日、彼は血縁上の祖父が別にいることを知る。実の祖父は、太平洋戦争で零戦パイロットして戦い特攻出撃により戦死していた。

📖 『永遠の0 (ゼロ)』 大石直紀 // 著



祖国を追われたユダヤ人約6000人の命を救った杉原千畝。多くの命を救い、祖国日本のために、太平洋戦争を避けようと戦ったひとりの外交官の心の葛藤を描く。

📖 『はだしのゲン』 中沢 啓治 // 著 もあります